

## 1. 提出試料

銅触媒活性炭

1点

依頼者より提出された試料は円盤状であり、片面に黒色の粉末が付着していた。

## 2. 試験方法

JIS L 1902-2015 附属書JA (規程) 定性試験 (ハロー法) を参考にし、以下の方法で行った。

### (a) 試験に用いた細菌

カンジダ菌 : *Candida albicans* NBRC1594

### (b) 試験用微生物の培養

5 mLの表1に示すYM培地で (a) の細菌を27 °Cで一晩振盪培養した。

### (c) 微生物を接種した平板培地の調製およびハローの測定

(b) で調製した微生物を約 $5 \times 10^6$  cfu/mLとなるように希釈し、その1 mLを直径9 cmのペトリ皿に加えた。次に、表1に示すYM培地100 mLに1.5 gの寒天を加え、高圧蒸気滅菌後、約50 °Cに保温した。ペトリ皿に15 mLの本培地を加え、攪拌、混和後、冷却、固化させ、試験用平板培地とした。平板培地の表面を乾燥させた後、試料の粉末付着面と培地が接触するように置き、27 °Cで放置し、24時間後に提出試料の周りの発育阻止帯の有無を調べ、ハローの幅を計測した。

表1 YM培地の組成

蒸留水	1000 mL
ブドウ糖	10 g
ペプトン	5 g
酵母エキス	3 g
麦芽エキス	3 g

## 3. 試験結果

27 °Cで24時間放置後の発育阻止帯の有無及びその幅を表2に示す。

表2 発育阻止帯の有無及びその幅

提出試料名	試験菌株	発育阻止帯の有無 (幅)
銅触媒活性炭	カンジダ菌	有 (2.6 mm)

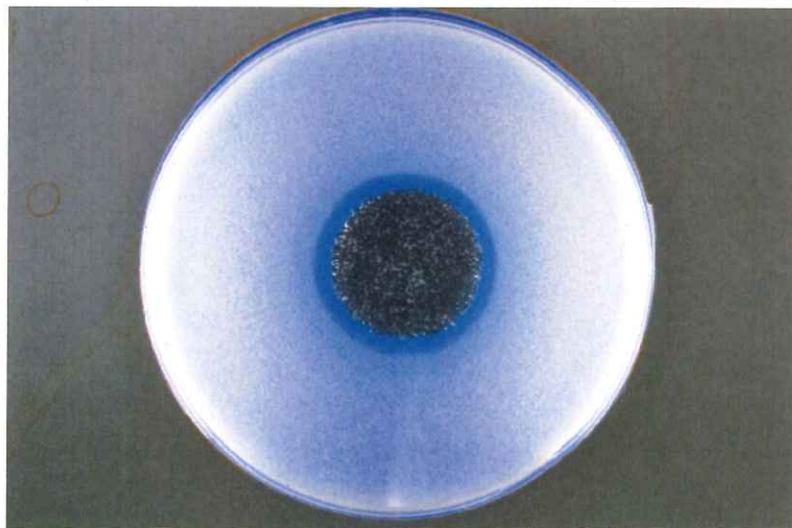


図1 銅触媒活性炭の27 °Cで24時間放置後の写真

—以 上—

